



共に生きる

まつばらホームクリ

ニックの看護師・齋藤雅子です。今回のコラムは、私が書かせていただきました。20年間訪問看護に携わってきた経験をもとに、認知症になっても自宅で暮らせる地域について考えます。



先日放送されたNHK

スペシャル「認知症の第1歩」は楽しみでした。娘一人者が認知症になったのは、痴呆症の呼び名を認知症と改めさせ、「長谷川式」といわれるその診断法を編み出した長谷川和夫医師の現在の生活を追っていました。

認知症と診断された長谷川先生は、介護の必要な奥様と二人暮らしで、娘さんが介護のために通ってきています。

認知症になり物忘れが進むと、自分が何者だかわからなくなり不安に襲われます。一人で外出して道に迷ったとき、出先で転ぶと安心できません。仕事を続けていると社会に役立つという実感で、馴染みの喫茶店に行

介護家族の休養のため、先生が提唱したデイサービスには、ご自身が利用者となつて行つても、もの、「孤独だ」と止めてしまいます。また家族に迷惑をかけまいと施設に入所することを考え、させられました。

認知症の高齢者数は、今年630万人(およそ6人に1人になると推計され、誰もがなり得る病気です。認知症になつた方がさまざまな問題を抱えながら、医療や介護サービス

【まつばらホームクリニック】
 ☎ 042-439-1250
 西東京市東町 4-14-18-2F
 (訪問中のため不在が多い)
 ■電話対応：午前 9:00 ~ 午後 6:00
 ■定休日：土日(祝日は診療)
 ■訪問地域：西東京市、東久留米・新座・練馬の一部



↑ 診療相談はこちらから

まつばらホームクリニック 検索